

下水道政策研究委員会 第5回 脱炭素社会への貢献のあり方検討小委員会 議事要旨

日時 令和4年3月1日(火) 15:00~16:00
場所 WEB会議により開催
出席者 委員長 花木委員
委員 池委員、井出委員、大森委員、河西委員、佐々木委員、品部委員、白崎委員、末久委員、高橋委員、田尻委員、藤本委員、村上委員
オブザーバー 環境省大臣官房環境計画課、農林水産省大臣官房環境バイオマス政策課
事務局 (国土交通省) 植松下水道部長、奥原下水道企画課長、松原下水道事業課長、津森下水道国際・技術室長
(日本下水道協会) 成田常務理事、中島常務理事、平野企画課長

□ 配付資料：

次第

委員名簿

- | | |
|-----|--------------------------|
| 資料1 | 第4回での主な意見・提案について |
| 資料2 | 脱炭素社会への貢献のあり方検討委員会報告書概要案 |
| 資料3 | 脱炭素社会への貢献のあり方検討小委員会報告書案 |
| 資料4 | 脱炭素社会貢献への取り組みロードマップ(案) |

□ 議題：

(1) 開会

- ・植松下水道部長より挨拶

(2) 委員長挨拶

- ・花木委員長より挨拶

(3) 議事

1. 第4回での主な意見・提案について
2. 脱炭素社会への貢献のあり方検討小委員会報告書案について

事務局) 「資料1 第4回での主な意見・提案について」を説明。

○ 委員長：

- ・特に意見はないようなので、次に進む。

事務局) 「資料2 脱炭素社会への貢献のあり方検討委員会報告書概要案」

及び「資料3 脱炭素社会編子貢献のあり方検討小委員会報告書案」を説明

○ 委員長：

- ・ロードマップの扱いはどのようになるか。

○ 事務局：

- ・資料3で、今後強化すべき施策として具体的な施策を記載している。それぞれの施策をどのような時間軸で実施していくかは、資料4のロードマップで掲げている。個別の説明は割愛するが、2030までに必要な環境整備は2025年まで、2050年まで

の導入に必要な環境整備は 2040 といった時間軸をもってロードマップを掲載している。

○ 委員：

- ・ 「あるべき姿」で出てきたグリーンイノベーションについては、目指すところを明確にしたほうが良いとコメントした。「産業構造を変えていく拠点の一つにする」は、非常にいい言葉である。今まで下水道は、産業の動脈と静脈のうち、静脈側でやってきたが、これからは循環型や低炭素化でいこうとすると、（下水処理場が）ものづくりまで含めた循環型の拠点の一つになるというメッセージが反映されている。
- ・ 「第 4 の実現のための方針と施策展開の視点」で、2030 年地球温暖化対策計画達成のための施策について具体的な目標が出てきたが、社会情勢の変化や新技術の開発などの大きな変化が起こったときに、その後の妨げになることが懸念される。本報告書内の記述は、社会状況等を見ながら、柔軟に取り組むという意味で書かれたと理解している。
- ・ 「デジタル技術を活用する」とあるが、デジタル技術だけでなく、実際は出てきた情報をシステムとしてどう使うかであり、システムが違う方を向いていると、全体的に違う結果になることもあるので、システムとして捉えることも明示するようリクエストした。それに対して、「（デジタル技術の活用が）下水処理システムを下支えする」と書かれている。
- ・ 今の 3 点を指摘し、それぞれ対応していただいで満足している。

○ 委員：

- ・ 資料 3 の P.19 (2) の①で、省エネ診断等をやるのは国と研究機関となっているが、公的機関を（事前意見募集の時の資料のとおり）入れて欲しい（【国、研究機関、公的機関】とする）。また、資料 4 のロードマップの方にも反映させて欲しい。

○ 委員：

- ・ 資料 3 の P.9 (2) の「排出量の多寡に関わらず」という記述により、大規模処理場だけでなく、ほとんどすべての地方公共団体に取り組むべきことがあり、ポジティブにチャンスとして捉えなさいと読み取れるように書かれているのが良い。また、それにより、地域から海外までの人材や資金を引きつける好循環を生み出し、今回のグリーンイノベーションが日本経済を底支えして、日本経済の構造変化を促すようなものになればいいという思いが非常に強く出ている、下水道にとどまらない素晴らしい内容だと感じた。

○ 委員：

- ・ P.12 表 1 内の基準値や目標値に、以前示された数値と若干変わっている。これらの数値の考え方を教えて欲しい。例えば「地域バイオマスや廃棄物処理施設等との連携事業実施数 20 件」や「 $0.09 \text{ t} \cdot \text{CO}_2 / \text{千 m}^3$ 」など。

○ 事務局：

- ・ 資料 3 の P.11 に示している①～④の内容は、第 1 回委員会の時に説明した地球温暖

化対策計画の内容である。それと関連して、地球温暖化対策計画に入っていない取り組みについても、その後の国土交通省環境行動計画で目標を掲げている。

- ・ 「地域バイオマスや廃棄物処理施設等との連携事業実施数 20 件」は、国土交通省として、今後の地域バイオマスや廃棄物処理施設等との連携を進めていくために、地球温暖化対策計画とは別に掲げている目標である。
- ・ 処理水量当たりのエネルギー起源 CO₂ 排出量については、地球温暖化対策計画と同様の考え方であり、年率 2%の消費エネルギー削減を行うという考えに基づいて目標設定しているものである。

○ 委員：

- ・ P.12 表 1 内の目標で、「下水道熱の導入か所」の定義は何か？また、リサイクル率等の母数は何か。注記があるとよい。
- ・ インパクトは小さくとも地方は地方で担うべき役割があると思っているが、消費エネルギー年率 2%減というのは非常に高い目標である。そのため、プッシュ型支援をもう少し早期に実施して、いかに実装していくかが課題であると思っている。CO₂ 低減に向けて、実装とフォローアップをしっかりとっていくのは、都道府県の役割かもしれないが、民間、事業団、機構等の協力を得ながら進めていくことはまずやるべきことかと考えている。
- ・ 今回の報告書は、全体的に非常にまとまった内容であり、これに沿って地方としても取り組んでいきたいと考えている。

○ 事務局：

- ・ 「下水道熱の導入か所数」は、まさに下水道熱利用が導入された場所の数として設定している。
- ・ 下水道バイオマスリサイクル率は、指標名のところに括弧書きで分母を記載している。下水汚泥中の有機物量のうち、エネルギー・緑農地利用されたものの割合である。もし、まだわかりづらいというときは、ご指摘いただきたい。
- ・ プッシュ型支援については、国交省としても実施していきたいと考えており、連携して取り組んでいきたい。

○ 委員長：

- ・ 下水道熱の導入箇所数については、バス停も 1 ヶ所、大量に供給するところも 1 ヶ所と数えている。導入可能性がある場所の数は特定できないので、実数で表現するのがいいということか。

○ 事務局：

- ・ そうである。

○ 委員：

- ・ 目指すべき将来像のところでは「地域の活性化、強靱化」という表現があるが、本文や施策のところでは「地域の成長」や「地域の成長戦略」という言葉に変わっている。このあたりの関係性について整合性を取るなど、目指すべき姿を意識した書きぶりが必要かと思う。

- ・ 目指すべき将来像のところ、**「産業構造の転換拠点」**という言葉はなかなかイメージしにくい、補足説明をどこかに書く等、対応していただければと思う。

○ **事務局：**

- ・ 表現の整合性やわかりやすく解説していくことについては、全体として検討していく。

○ **委員長：**

- ・ 議事の最後のその他として、今後のスケジュール等について、事務局から説明をお願いしたい。

○ **事務局：**

- ・ 報告書は、3月末を目途に公表したいと考えている。スケジュールがタイトで恐縮だが、追加意見があれば3月9日までに事務局までをお願いしたい。
- ・ 本日の議論内容と追加意見を踏まえ、事務局にて最後の修正をし、花木委員長に最終確認をいただいてとりまとめをしたいと考えている。

○ **委員長：**

- ・ 今後の進め方についてはよろしいか。（特に異議はなし）。
- ・ 本日の議論とこれから追加でいただくご意見に対して、事務局の方で原案を作ってください、私の方で最終確認をする形で進めさせていただきます。

○ **事務局：**

- ・ 本日の議論の内容は、後日概要を確認していただく。
- ・ 追加意見は3月9日までに事務局までご連絡をお願いしたい。
- ・ 本日の議論と追加意見を踏まえて、事務局で最終調整をし、花木委員長に確認していただく。
- ・ その後、委員に報告した後に、報告書を公表する。

(4) 閉会

- ・ 日本下水道協会中島常務理事より挨拶

以上